

「パートナーシップ構築宣言」

当社は、サプライチェーンの取引先の皆様や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築するため、以下の項目に重点的に取り組むことを宣言します。

1. サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携

直接の取引先を通じてその先の取引先に働きかける(「Tier N」から「Tier N+1」へ)ことにより、サプライチェーン全体での付加価値向上に取り組むとともに、既存の取引関係や企業規模等を超えた連携により、取引先との共存共栄の構築を目指します。その際、災害時等の事業継続や働き方改革の観点から、取引先のテレワーク導入やBCP(事業継続計画)策定の助言等の支援も進めます。

(個別項目)

1. 企業間の連携(オープンイノベーション、M&A等の事業承継支援 等)

生産・販売・飲食のサプライチェーン構築に向けた提携と将来的なホールディングス化

現在、当社はホールディングス体制ではありませんが、将来的なホールディングス化を見据え、まずは生産者や飲食店との提携から開始し、サプライチェーンの構築を目指します。

人材不足、米不足、食材不足等の課題に対し、以下の取り組みを行います。

サプライチェーン構築に向けた提携: 各事業者の強みを活かし、連携することで、生産から販売、飲食まで一貫したサプライチェーンの構築を目指します。

人材の相互活用: 提携事業者間で人材育成・配置を協力し、人材不足の解消を図ります。

資源の安定確保: 提携各社との連携により、米や食材の調達ルートを多角化し、不足のリスクを軽減します。

将来的なホールディングス化: 上記の提携を基盤とし、事業の拡大と安定化を図るため、将来的なホールディングス化を計画します。

これらの取り組みにより、サプライチェーン全体での付加価値向上と安定化を目指します。

2. IT実装支援: airtable活用とIT人材育成

現在、社内でairtableを活用した業務システムを活用していますが、一部のスタッフに属人化しています。

airtableの利用を全社員に拡大するため、オンラインコース形式の社内学習システムを構築し、airtableの活用方法を教育します。

これにより、全社員がairtableを使いこなせるようになり、様々な業務の効率化や業務アプリケーションを作成できるスキルを高め、IT人材の育成を仕組み化します。

2. 「振興基準」の遵守

親事業者と下請事業者との望ましい取引慣行(下請中小企業振興法に基づく「振興基準」)を遵守し、取引先とのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組みます。

①価格決定方法

不合理な原価低減要請を行いません。取引対価の決定に当たっては、下請事業者と少なくとも年に1回以上の協議を行うとともに、下請事業者の適正な利益を含み、下請事業者における労働条件の改善が可能となるよう、十分に協議して決定します。その際、「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」に掲げられた行動を適切にとった上で決定します。また、原材料費やエネルギーコストの高騰があった場合には、適切なコスト増加分の全額転嫁を目指します。なお、取引対価の決定を含め契約に当たっては、契約条件の書面等による明示・交付を行います。

②手形などの支払条件

下請代金は可能な限り現金で支払います。手形等で支払う場合には、割引料等を下請事業者の負担とせず、また、支払サイトを60日以内とします。

④知的財産・ノウハウ

「知的財産取引に関するガイドライン」に掲げられている「基本的な考え方」や、「契約書ひな形」を踏まえて取引を行い、片務的な秘密保持契約の締結、取引上の立場を利用したノウハウの開示や知的財産権の無償譲渡などは求めません。

⑤働き方改革等に伴うしわ寄せ

取引先も働き方改革に対応できるよう、下請事業者に対して、適正なコスト負担を伴わない短納期発注や急な仕様変更を行いません。災害時等においては、下請事業者に取り引上一方的な負担を押し付けないように、また、事業再開時等には、できる限り取引関係の継続等に配慮します。

3. その他(任意記載)

2025年5月17日

尾形米穀合同会社

企 業 名

代表社員 尾形 厚志

役職・氏名(代表権を有する者)

(備考)

- ・本宣言は、(公財)全国中小企業振興機関協会が運営するポータルサイトに掲載されます。
- ・主務大臣から「振興基準」に基づき指導又は助言が行われた場合など、本宣言が履行されていないと認められる場合には、本宣言の掲載が取りやめになることがあります。